

京都国立博物館

だより

二〇二六年
一二三月号

東海道五十三次
江戸 横濱

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2026 January to March, vol. 229



縁を結ぶかたな
— 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 —
特集展示

薩摩島津氏と東福寺即宗院
— 千支を愛でる —
特集展示

小西家伝来尾形光琳関係資料
— 光琳かるたと
縁を結ぶかたな
— 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 —
特集展示

薩摩島津氏と東福寺即宗院
— 千支を愛でる —
特集展示



うまづくし

— 干支を愛でる —

12月16日(火)

令和8年1月25日(日)
平成知新館 2F—1～3



重 要文化財 駿馬図 景徐周麟賛 きょうとうこくりつはくぶつかん 京都国立博物館

令和8年の「干支を愛でる」もアミリー向け！

やさしい解説文（小学校高学年）

令和8年の「干支を愛でる」もアミリー向け！

やさしい解説文（小学校高学年）

2026年の干支は午(馬)ですね。

みなさんは馬を近くで見たことがありますか？ 今は見る機会が減りましたが、昔は、馬は人の身近にいる生き物でした。「うまづくし—干支を愛でる—」では、次の4つのテーマに沿って作品を展示します。

2 カける馬

スポーツや競争で躍る馬たちを集めました。人と馬が一つの体になつたように、息を合わせてうまく走ることを、「人馬一体」といいます。人馬一体になつてかける姿を見つけに行きましょう。

3 いのりと馬

人々は、いのりを込めて馬の形をつくり、神様に捧げたり、飾ったりしました。これらの馬たちは、どんな思いを込めて作られたのでしょうか。

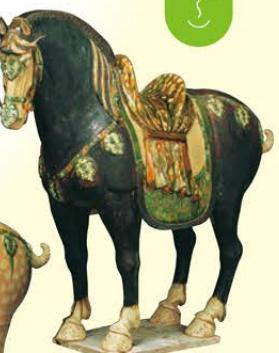
4 うまづくし！

野生の馬や、実物大の馬、

とにかくたくさんの方が、展示室であなたを待っています。かけたり、草を食べたり、いなないなり。あなたのお気に入りの馬はいますか？



五人形のうち
馬 うの はらまきこ し き ぞう きょうとうこくりつはくぶつかん 宇野原正子氏寄贈・京都国立博物館



重 要美術品 三彩馬 じゅうようひじゅつひんさんさいばよう せにたかまねこ し き ぞう きょうとうこくりつはくぶつかん 錢高衣子氏寄贈・京都国立博物館



楊妃撃丸図(部分) 北川豊氏寄贈・京都国立博物館

薩摩島津氏と東福寺即宗院

12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
平成知新館 1F～2

現存最古の方丈が国宝指定をうけていることで有名な龍吟庵のすぐ東に位置します。島津氏久(一三一八～八七)の菩提を弔うため、剛中(こうちゆう)・玄柔(げんじゅう)・東福寺五十四世を開基にむかえ、嘉慶元年(一三八七)に創建されたといいます。永禄十二年(一五六九)には火災で焼失するものの、島津家久(忠恒)一五七六～一六三八)の尽力により、慶長十八年(一六一三)に再興を遂げました。

このように、島津氏の菩提寺として歲月を重ねるなかで、即宗院に集積された寺宝の多くは、残念ながら明治維新後の混亂期に寺外へ流出したようです。文化財はあるべきところを離れて除けば、いざれも新出と考えられるから驚きです。

そこで、今回の展示では、およそ五十年ぶりの奇跡の再会を記念し、桃山時代から幕末にいたる古文書のなかでも中核をなす、即宗院の再建に関わるものを中心紹介いたします。

(羽田聰)

光琳かるたと 尾形光琳関係資料

12月16日(火)～令和8年2月1日(日)
平成知新館 2F～4・5



重要文化財 美人図画稿（小西家伝来尾形光琳関係資料のうち）
尾形光琳筆 京都国立博物館

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【法華経と祝運の美術】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【時宗の祖師絵伝】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅱ】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【北齊時久書状（切紙、潤三月十一日付）】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【伊集院忠栗書状（切紙、六月廿八日付）】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【沼津承正書状（折紙、仲夏廿九日付）】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【伊勢貞昌書状（折紙、十一月五日付）】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【北齊時久書状（切紙、潤三月十一日付）】

※すべて東福寺即宗院（薩摩島津氏菩提寺）関係文書のうち 長岡成光氏寄贈・京都国立博物館

3F～2 考古

12月16日(火)～令和8年3月15日(日)
【日本の考古資料】

12月16日(火)～令和8年3月15日(日)
【日本と東洋のやきもの】

12月16日(火)～令和8年3月15日(日)
【明末清初の五彩磁器】

12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【融通念佛縁起—念佛の功德】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【時宗の祖師絵伝】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～2月23日(月・祝)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅰ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅱ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅲ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅳ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅴ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅵ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅶ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅷ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅸ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅹ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅺ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅻ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅼ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅽ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅾ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を愛でる—
12月16日(火)～令和8年1月25日(日)
【禪寺の障壁画—旧大徳寺養徳院Ⅿ】

1月27日(火)～2月23日(月・祝)
【法華経と祝運の美術】

2月25日(水)～3月22日(月・祝)
【涅槃図】

うまづくし—千支を

雛まつりと人形

令和8年2月7日(土)～3月15日(日)

平成知新館 1F—2

土手の枯草にも青い芽がのぞきはじめ、今年もまた雛の季節がめぐってきました。

雛まつりは「上巳の節句」ともいい、もとは古代中国に起源を持つ禊の行事で、日本に取り入れられると、貴族らは川辺で祓を行い、曲水の宴を催すようになります。そこで用いた人形は、日常生活の中で人間にいた穢れを引き受け、水に流すなどして捨てられました。現代でも「流し雛」として目にすることができます。この習俗がやがて、子どもが遊びに用いる人形と結びつき、江戸時代には座敷に飾りつける雛人形や雛段へ発展したと考えられています。



享保雛（大内雛） 京都国立博物館



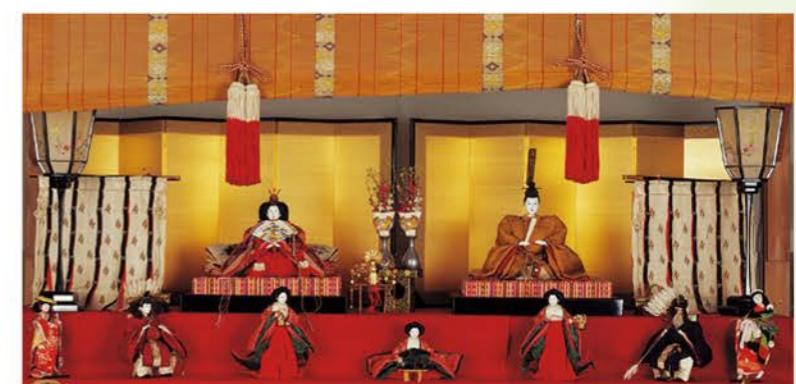
京風古今雛 玉城芳江氏寄贈・京都国立博物館

「内裏雛」とも呼ばれるように、雛人形のモデルとされたのは、天皇と皇后の姿です。本年の「雛まつりと人形」では、雛人形を通して表現された天皇と皇后の姿の移り変わりに注目します。江戸時代の人々が漠然と抱いていた天皇のイメージを托したものから、写真などを参考に、その姿を正確に写そうとした明治時代以降の品まで、いつの世も、憧れのまなざしをもつて、大切に守り伝えられてきた雛人形の諸相をお楽しみください。

(山内麻衣子)



御所人形 春駒持 京都国立博物館



段飾り雛 五世大木平蔵作 山本あや氏寄贈・京都国立博物館

[ミュージアムパートナー一覧]

- 【ホール】土屋 和之
- 株式会社 COHEN ホールディングス
- 株式会社 俄／一般財団法人 NISSHA 財団
- 「シリバ」 学校法人 二本松学院
- 東レエンジニアリング株式会社／伊藤正人
- 【プロンズ】原田清朗／片山明

※令和7年12月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいている。

よみもの

特別展「宋元仏画——蒼海を越えたほとけたち」を観覧して

京都大学人文科学研究所准教授 吳 孟晋

特別展を観覧する醍醐味は、事前の予想をいい意味で裏切られることにある。展覧会の名からなんとなく思い描いていた印象を塗り替えてくれるよう、そのような驚きにみちた気づきが、この「宋元仏画」展にはあった。

「宋元仏画」は、その名のとおり、中国の宋時代から元時代にかけて制作された仏教絵画のことである。丹や緑の鮮やかな色彩で精緻に描かれた如来や菩薩たちの尊像や、画僧の牧谿に代表されるような水墨で簡潔に描かれた宗教的故事を主題とする道耕画を二つの核とする、悠久の地の「いのり」の美の結晶である。京博が誇るべき専門性の高い企画であり、美術史学の研究者のあいだでは前評判が高かったものの、一般の方にはなじみのないものとして敬遠される展示になってしまふのではないか。元館員として同展の立ち上げにかかわっていたときには妙案が思いつかず、後任の森橋なつみさんにすべてを託していた。

展示は、「宋元文化と日本」の第一章からはじまる七つの章と、二つのトピックで構成されている。ふつうの展覧会よりも章の数が多くなっているの最大の特徴をあますところなく伝えるためであった。本来、平常展示館として設計され、部屋数が多いうえに各室の大きさがまちまちな平成知新館の構造をうまく活かした、熟慮のたまものであろう。さまざまな仏画を尊格や主題ごとにまとめて展示することで、図像が転写されてゆく過程を比較することができる。そのうえで、鎌倉、室町時代での唐物賞玩から江戸絵画への影響まで、日本からのさまざまな視点をこまかく設定することにより、展示の導線がわかりやすく提示されていた。最後の第七章「日本美術と宋元仏画」のある一階の第六室に出陳された原在中による顔輝筆「蝦蟇鉄拐図」(重文、百萬遍知恩寺藏)の模写(京都国立博物館蔵)や、田能村竹田による「白

衣觀音像」(重文)の模写は、その拡がりを示す好例である。当初思い描いていた宗教性、そして専門性のつよい内容ではなく、宋元仏画の多様なあり方を今日の私たちにわかりやすいかたちで開示してくれた、そのことが新鮮な驚きであった。

これはひとえに主担当である森橋さんはたらきであり、各分野の研究員のみなさんによる「全員参加」のたまものである。図録に収められたコラムの多さがそれを物語つていいよう。さらに今回は共催各社の尽力も大きかつたのではないだろうか。とくに毎日新聞社は平成二十九年(2017)秋の「国宝」展をきっかけに宋元仏画の魅力に理解を示してください、この企画を提案いただいた。展示構成をつくりあげるにあたり、日々議論して内容を彫琢していくたとうかがつてている。

もちろん、展示の「わかりやすさ」は綿密な学術考証に裏打ちされてのことである。たとえば、宋元の影響を受けた高麗仏画の名品である京都・妙滿寺蔵の李晟筆「弥勒下生変相図」(重文)は本展で修理後初公開されたが、裏打ちをはがしたところ、封入されていた版本曼荼羅が発見されたことは大きな話題となつた。宋元仏画研究の第一人者である井手誠之輔先生が企画協力された国際シンポジウムでも、図像の聖性にかんする議論が深められていたのは大きな成果である。本展は、今後、日本から海外に発信する重要な研究成果のひとつに数えられるだろう。

もちろん、日本からの文脈で展示について欲をいえば、国内各地の寺院にちらばる「知られざる」名品をもっと拝見したかったという思いもある。各地の自治体の指定を受けている中国、朝鮮半島請來の仏画は思いのほか多く、まだ知られていないものもあるだろう。本展を契機にして、日本にある中国や朝鮮の美術の意義について関心が深まることをのぞみたい。

講座・イベント

《土曜講座》

1月17日(土)「光琳かるたの絵と言葉」

京都国立博物館保存修理指導室長 福士雄也

1月24日(土)「東福寺即宗院とその文書」

京都国立博物館企画室長兼美術室長 羽田 聰

1月31日(土)「地域の宝をみんなでまもる

～能登半島地震における文化財レスキュー～」

京都国立博物館研究員 中屋菜緒

2月7日(土)「手本をもってつくらせた茶碗」

京都国立博物館工芸室長 降矢哲男

2月14日(土)「涅槃図を見るポイント」

京都国立博物館教育室長 大原嘉豊

2月21日(土)「古墳時代の馬の装い」

京都国立博物館アソシエイトフェロー 緑納民之

2月28日(土)「雛まつりの装いⅡ」

京都国立博物館調査・国際連携室長 山内麻衣子

3月7日(土)「仏画と仏像の莊嚴」

京都国立博物館アソシエイトフェロー 大谷 弦

3月14日(土)「織部焼の虚像と実像」

京都国立博物館学芸部長 尾野善裕

※平成新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし講演会当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。今年度は令和8年2月15日(日)に実施します。留学生の方は、学生証をご提示いただくと、無料で名品ギャラリー(平常展示)をご観覧いただけるほか、「京都国立博物館ハンドブック」(日本語版、英語版、中国語版、韓国語版のいずれか)をプレゼントします。この機会にぜひご来館ください。

これからのお見合

◆特別展 北野天神

令和8年4月18日(土)～6月14日(日)

◆特別展 源氏物語 王朝のかがやき

令和8年10月6日(火)～11月29日(日)

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展との前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：令和8年3月24日(火)～4月16日(木)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<12月16日～令和8年4月16日>

9:30～17:00

*金曜日は20:00まで開館

*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】

<12月16日～令和8年3月22日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンバスメンバーズ(教職員を含む)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】

<令和8年3月24日～4月16日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンバスメンバーズ(教職員を含む)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子が付きます。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、12月29日(月)～令和8年1月1日(木・祝)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。



*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X (旧Twitter)・Instagram
@KyotoNatMuseum



公式キャラクター・トラリんサイト
<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和8年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM



京都国立博物館の庭園をめぐるアプリケーション

「京博庭園ナビ」

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間:9:30～16:30 料金:無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>